

## 第12回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会優秀演題賞

(筆頭者写真とコメント、五十音順)

### 最優秀口演賞

ギャローデット大学ろう者学部  
皆川愛さん

言語的マイノリティとしてのろう者を対象にした  
手話版大腸がん資料の作成

がん治療の場面では、患者が理解して意思決定するための情報提供が求められています。ろう者の第一言語である日本手話でわかりやすく情報を提供するために、国立がん研究センターの大腸がん冊子を手話への翻訳にあたって検討したことを整理しました。検討過程では、手話特有の表現技法が調整され、ろう社会で定型化していない医療用語の手話表現の工夫がなされました。これは、受け手の心理的反応への配慮や、断定しすぎない表現を必要とする医療マスメッセージ上の方略を、手話表現に応用する方法であったと考えられます。ろう者の医療情報格差を埋めるべく、今後も手話での情報資料開発と翻訳技術向上のための研究を積み重ねていきます。



### 最優秀ポスター賞

国立研究開発法人国立がん研究センター  
がん対策情報センターがん情報提供部  
齋藤弓子さん

男性がん患者から求められる性に関する情報と支援についての検討：医療者を通じて収集した患者の語りから

がんの分野において男性患者への性に関する支援が少ないことが指摘されています。本研究では、全国がんセンター協議会に加盟する22施設540名の医療職を通して収集した男性がん患者の性に関する質問や疑問等を基に、求められる情報や支援について検討しました。その結果、患者に質問や疑問を表出してもらうための工夫（パンフレットやHP等の資料の活用）や医療者側からの働きかけ、パートナーとの関係に関わる自分や相手の気持ちの変化に対処するための情報を提示する必要があることが示されました。患者と医療者が使用する言葉には相違があることを意識し、患者の言葉を用いた情報作成と医療者側からの説明が求められます。

